

(S2019-47 用)

研究課題名	IVRに関する医療被ばく実態調査及び線量評価
研究期間	研究実施期間：2020年1月15日～2020年7月31日 研究対象期間：2018年度の1か月間
研究の目的と意義	<p>医療放射線の利用は、国際的に増加しています。放射線治療を除き、医療被ばくの中で被ばく線量が高い診療は、X線CT検査及びインターベンシヨナルラジオロジー（IVR）です。特に、IVRは、長時間のX線透視による確定的影響（皮膚障害）が生じる可能性のある手技で、防護の重要性が高い手法の一つです。</p> <p>日本では、これまで国レベルでは医療被ばく防護の最適化において、診断参考レベル（Diagnostic Reference Level：DRL）が設定されていない状況が続いていました。</p> <p>2015年に、関連学会等の協力により、「最新の国内実態調査結果に基づく診断参考レベルの設定」（Japan DRLs 2015）が出されました。DRLは、新しいデータに基づく定期的な見直しが推奨されており、そのためにも医療被ばくに関する実態調査を継続する必要性があるということで、今回、IVRに関する実態調査を行うべく、日本医学放射線学会と放射線医学総合研究所は、共同研究として本研究を実施することとなり、当院も協力することとなりました。</p>
研究方法	2018年度の決められた1か月間に血管撮影およびIVRを施行する、各手技（脳血管撮影、心臓血管撮影、脳動脈瘤コイル塞栓術、冠動脈形成術、肝動脈化学塞栓療法、腸骨・下肢動脈拡張術、胸部大動脈ステントグラフト内挿術、腹部大動脈ステントグラフト内挿術、胆道ドレナージ術）別の連続する3症例を対象に、患者さんの性別、年齢、身長、体重、装置の種類、手技の種類、空気カーマ、総面積線量、透視時間、撮影数、CT回数、CTDI、DLP、各手技の年間件数の各項目を、症例毎に記録し、学会に提供し、被ばく線量を算出します。得られたデータを基にIVRの実態を解析し、線量分布から、IVRにおける診断参考レベルを求めます。
個人情報の保護、研究参加の拒否について	<p>利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。</p> <p>また、本研究への参加拒否を希望される患者さんについては、担当医師にお申し出ください。</p>
結果の公表	この研究の成果は、研究に関連する学会や学術雑誌等で発表されることがありますが、その際も対象となった個々の症例の報告はなされず、集計されたデータをもとに得られた結果のみを公開し、個人情報は守られます。
問合せ先	<p>【研究責任者】 京都第二赤十字病院 放射線診断科 副部長 寺山 耕司 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355-5 TEL：075-231-5171（代） FAX：075-256-3451（代）</p>